

今年もハンディでデータ満載の特製「ダイアリー2014」を作りました!

JWings

「Jウイング」戦闘機が楽しくなる
ミリタリーマガジン

2

2014
No.186



別冊付録

Jウイング特製

ダイアリー2014

マニア必携の*お役立ちデータを
さらにパワーアップ!



それは、名機の証!!

魔改造 × 戦闘機

リアルな航空機や空中戦がスゴイ

映画「永遠の0」はこうして倍楽しむ!

『防空識別圏』を考える ブルーが飛んだ! 芦屋&新田原&岐阜レポート



出撃前に整備クルーと打ち合わせを行う、ブラジル空軍第1防空戦闘飛行隊のミラージュ2000Bのパイロット(写真:Phodocu)



ブラジル空軍のミラージュ2000C。ブラジルはミラージュ2000C/Dを後継する戦闘機の選定を進めているが、予算不足や政治的な問題から選定作業は遅れている(写真:Phodocu)



続々とタキシングを始めるコロンビア空軍のA-37B。現在では珍しくなったサイド・バイ・サイドのコックピットが印象的だ(写真:Phodocu)



ベネズエラ空軍のF-16A。2013年がF-16の引渡し開始から30周年にあたるため、写真の機体には垂直尾翼にそれを記念する鮮やかなスペシャルマーキングが施されている(写真:Phodocu)



列線で待機するブラジル空軍のF-5EM。2013年3月に最初の改修機が引き渡されたばかりの新鋭機を参加させたところに、ブラジル空軍の意気込みが感じられる(写真:Daniele Faccioli)

ペーパーをひいて急上昇するベネズエラ空軍のF-16A。ベネズエラ空軍は24機のF-16A/B(ブロック15仕様機)を導入したが、既に最終号機の引渡しから29年が経過しており、またアメリカからパーツの供給も滞っているため、後継機としてSu-35やJ-10などの導入を検討しているという(写真:Phodocu)

チリ、アルゼンチン、ブラジルの3ヶ国は1999年から持ち回りで多国間軍事演習を実施しており、チリがホスト国を務める演習は「Salitre」、アルゼンチンがホスト国を務める演習は「Ceibo」、そして今回行われたブラジルの演習は「Exercício Cruzeiro do Sul」(ポルトガル語表記では「Exercício Cruzeiro do Sul」と呼ばれている)。

2010年以来3年ぶり、CRUZEXとしては通算6回目となる今回の演習は、ブラジル北東部に位置するリオグランデ州のナタール空軍基地と、ベルナンブーコ州のレシフェ空軍基地を拠点に、92機が参加して行われた。参加国はホスト国のブラジルのほか、チリ、コロン

左からチリ空軍のF-16AM、ブラジル空軍のミラージュ2000C、A-1M、F-5EM、ベネズエラ空軍のF-16A。演習に参加した戦闘機と攻撃機による編隊飛行で、機体も塗装もバラバラな5機が一堂に会した珍しいショットだ(写真:Phodocu)



8ヶ国の多彩な軍用機がリアルな状況設定で実施

11月4日から15日の約2週間、ブラジルで

南アメリカ最大級の多国間軍事演習「CRUZEX Flight 2013」が開催された。

南米6ヶ国にアメリカとカナダを含めた計8ヶ国が参加、多彩な機体が集結したこの巨大演習を紹介しよう。



南米の巨大軍事演習 CRUZEX Flight 2013

Photos by Daniele Faccioli and Phodocu Text by Daniele Faccioli

チリ空軍のF-16。オランダ空軍から購入したブロック20仕様機で、レーダーやミッションコンピュータなどの換装を含むMLU(寿命中能力向上)改修を受けている。写真上はF-16AM、下はF-16BM(写真2枚とも:Daniele Faccioli)



ブラジル空軍のA-1M。JDAMの運用能力付与や戦術データリンク機能の追加などが施された近代化改修型で、ブラジル空軍は43機のA-1A/BのM型への改修を予定している(写真:Phodocu)





ブラジル空軍のF-5EM。レーダーの換装やE99早期警戒機との秘密通信装置の追加、AMRAAM空対空ミサイルの運用能力付与など、大幅な近代化改修が施されている(写真:Daniele Faccioli)



ベネズエラ空軍のY-8輸送機。ベネズエラはアメリカとの関係が悪化しており、近年は軍用機の輸入先を中国やロシアにシフトしている(写真:Phodocu)



ブラジル空軍のMi-35M攻撃ヘリコプター。Mi-35はMi-24Vの輸出型で、強化型エンジンの採用や夜間作戦能力の強化、コクピットの近代化などの改修が行われている。南米ではブラジルのほかベネズエラとペルーにも採用されている(写真:Daniele Faccioli)



演習に参加した8ヶ国のパイロットによる記者会見。ブラジル空軍はメディア対応にも力を入れており、この演習用のサイトも新設している(写真:Phodocu)

アメリカのコロンビア特別区空軍州兵第113戦闘飛行隊のF-16C。コロンビア特別区空軍州兵からはF-16のほか、第161空中給油飛行隊のKC-135も参加している(写真:Daniele Faccioli)



コロンビア空軍のKC-767ジュビター空中給油/輸送機。同じ767をベースにした航空自衛隊やイタリア空軍のKC-767と異なり、給油用のブームは装備していない。2011年には福島第1原発事故から避難する在日コロンビア人を支援するため、日本にも飛来している(写真:Phodocu)



ウルグアイ空軍のIA58ブカラ軽攻撃機。ブカラはウルグアイのほかコロンビアとスリランカにも輸出されたが両国では退役しており、現在はウルグアイ空軍と開発国のアルゼンチン空軍のみで運用されている(写真:Daniele Faccioli)

CRUZEX flight 2013

は午前の部比べて強度の低い紛争を想定していた。空対空戦闘演習はリオグランデ州の人口密集地から大西洋上に450km離れた高度1万4000フィートの領域で行われた。

前回までのCRUZEXでは、視程外空対空戦闘の演習における攻撃の検証は、演習終了後のデブリーフィングの結果分析のみだったが、今回は参加したすべての戦闘機が速度や高度、飛行パラメーターや使用した兵器の情報などを、レシフエに置かれた航空管制や防空指揮の拠点であるCINDATA IIIへ領域リーダーネットワークを経由して送信。これらの情報をGPSシステムによる情報と照合することで、リアルタイムに攻撃の成否を照合することが可能となったことから、より実践に近い状況で演習を行うことが可能となった。

CRUZEXで行われる演習の範囲は、視程外戦闘を含めた空対空戦闘から対地攻撃、電子偵察、空中給油、CSARと幅広い。このため参加する航空機もアメリカ空軍州兵とベネズエラ空軍、チリ空軍が送り込んだF-16や、ブラジル空軍のミラージュ2000、F-5EMのような戦闘機だけでなく、カナダ空軍のC-130Jやブラジル空軍のC-105A(C-295)といった戦術輸送機、コロンビア空軍

ブラジル空軍のC-105A(C295)。ブラジル空軍ではアマゾンナスというニックネームが付けられている(写真:Daniele Faccioli)



今回CRUZEX初参加となったカナダ空軍は、第436飛行隊のC-130Jのストレッチ型CC-130J(C-130J-30)を2機派遣した(写真:Daniele Faccioli)



ウルグアイ空軍のA-37B。A-37Bは両主翼下に合計8ヶ所のハードポイントを備えており、写真の機体は計6本のドロップタンクを懸吊している(写真:Phodocu)



コロンビア空軍第311戦闘飛行隊のA-37Bドラゴンフライ攻撃機。ベトナム戦争で活躍した旧型機だが、麻薬組織や左翼ゲリラなどの戦闘が多いコロンビア空軍では重用されている(写真:Daniele Faccioli)



エクアドル空軍のA-29Bスーパーツカノ軽攻撃機。航空機としては珍しいデジタル迷彩が施されている(写真:Daniele Faccioli)

